

論 文 要 旨

学籍番号	<input type="text"/>	氏 名	若林 城将
論文題目： <h2>プロセス KPI 導入方法の提案</h2>			
<p>(内容の要旨)</p> <p>日本企業の事業活動において、非財務指標の活用が進展している。既往研究によると、非財務指標を活用している企業は 9 割超、非財務指標の中から特に重要とされる指標を、KPI (重要業績指標 : Key Performance Indicator) という名称で設定・管理している企業は 6 割超である。このように非財務指標が活用される背景として、以下のような財務指標による管理の限界が挙げられている。①短期的 (中長期での投資や無形資産への投資が軽視される)、②集計したときには遅い、③集約されすぎていてアクションのモニタリングには活用できない</p> <p>しかし、財務指標による管理を代替、補完する形の非財務指標による管理においても、①財務成果に基づかない施策への資源配分、②報酬制度における恣意性、バイアス、③業務管理工数・コストの増大といった問題がある。</p> <p>本研究では、非財務指標の KPI を「プロセス KPI」と定義し、課題分析、要求分析、実証分析により、プロセス KPI 導入方法の提案を行った。課題分析の結果、プロセス KPI 指標選定の判断軸がないことを課題に設定した。次に判断軸を明確にするために要求分析を実施し、プロセス KPI に求められる条件を、①結果指標との相関が高い、②アクションが具体化される指標 (結果指標とは遠い)、③指標の数が少ない、の 3 つに整理した。最後に、企業の実データを活用した実証分析を通じて上記の 3 条件を満たすプロセス KPI 設定が可能かどうか検証を行った。可能な場合、非財務指標による管理の問題点を軽減し、メリットを享受出来る可能性が高まる。不可能な場合、上述したような問題の発生が想定される。</p> <p>仮説では、結果指標から遠いほど、相関は低くなり、かつ指標の数が増えるため条件を満たすプロセス KPI の設定は困難であったが、実証分析の結果、結果指標からの階層が増加したとしても、必ずしも相関係数は下がらないことがわかった。また相関が高い指標の数は多くなならない。加えて、グループ分けを行うことにより相関係数を高められることがわかった。</p> <p>プロセス KPI データを詳細に取得・分析ができる企業のみがプロセス KPI の導入を検討すべきであり、その他企業においては、結果指標につながることを目的としたプロセス KPI の導入は弊害をもたらす可能性がある。そのため、「企業の方向性を示す」、「現場のモチベーション向上」、「自己の振り返り」などに位置付け、結果指標との関係を厳格に追うべきではない。</p> <p>今回のデータによる実証分析は一企業の事例であるため、事業環境・特性が異なる他業種での検証が必要となることが今後の課題である。</p>			
キーワード (5 語) KPI、プロセス KPI、経営管理、非財務指標、ビジネスプロセスリエンジニアリング			